

私の「山月記」論

～レポート作成を通じて作品に対する理解を深める～

2年 現代文
「山月記」
資料の活用

ねらい

- 『山月記』を読んで、関心のある事柄についてテーマを設定し、関連する資料をもとに、自分の意見を検証することができる。
- 様々な資料を読むことやレポートの作成を通じて、作品に対する理解を深める。
- 図書を利用して調べる方法と参考文献の書き方を身に付ける。

学 習 展 開

- ① 教科担当教員が授業の目的と流れ、ワークシートの書き方等の説明をする。
- ② 学校司書が図書の使い方（目次・索引・奥付）、出典の書き方、「CiNii Articles」の検索方法について説明する。
- ③ 生徒は『山月記』を読んでテーマを設定し、仮説を立てる。
- ④ 生徒は仮説を検証するために必要な資料を探し、調べたことをワークシートに記入する。
- ⑤ 生徒はワークシートをもとにレポートを作成する。



テーマに関する資料を調べる生徒

◆司書教諭と学校司書の関わり

- 学校司書は教員と授業の流れとねらいを確認して、生徒が使用する資料とガイダンスの準備を行う。
- 司書教諭は教科担当教員と使用するワークシートの形式について打合せを行う。
- 学校司書は生徒の活動を T2 として支援する。

★指導のポイント

- ◆ 調査の過程でテーマを変更しても対応できるように、幅広い資料準備を行う。
- ◆ 資料がない時には、生徒が自分で学校司書に依頼するようにする。
- ◆ ワークシートを利用して思考の過程を可視化し、レポート作成につなげる。

資料

『中島敦「山月記」作品論集』（近代文学作品論集成（10））勝又 浩・山内 洋 2001 年
『中島敦が見つめた世界 没後 70 年』さいたま文学館／編 さいたま文学館 2012 年
『唐代伝奇』（新釈漢文大系（44））内田泉之助・乾 一夫 明治書院 1996 年 など